



色
雨
分
了

文
書
の
二
冊
入

特 別
~13
4150
2



413
4150
2

傾城國土産 第二

異名之部

目錄

一 大島由才

二 太鼓曲才 付リ 赤社出處

三 郎之曲才 付リ 勸出箱茶

四 白鼻大島曲才 付リ 鐘木町出下

アヤキ



五 月之由來

月の由來
家書之由來

六 粹之由來

大文天神崇

七 困之由來

赤也母之符

八 泊人之由來

伊つつあふのそら
在里妻起名

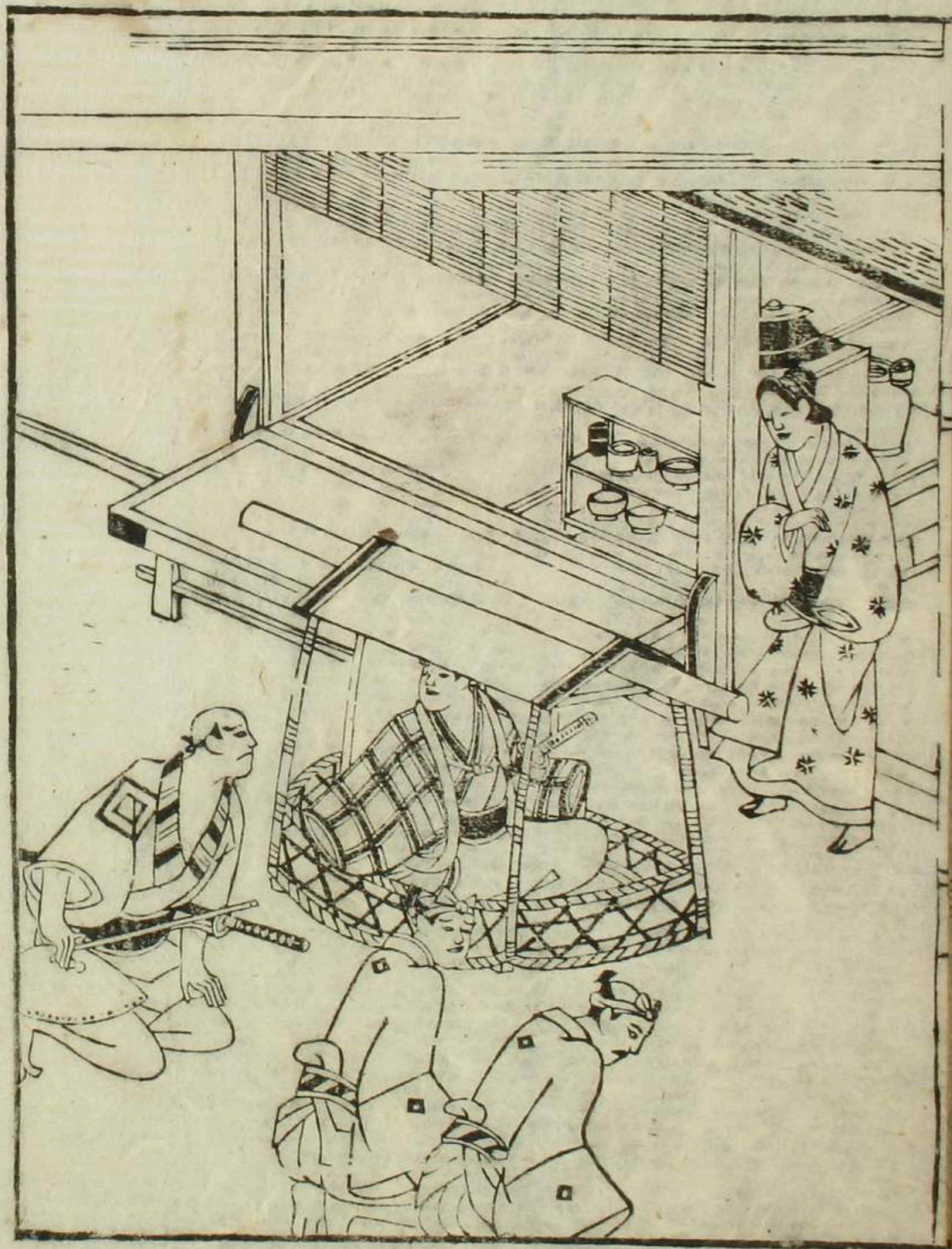
九 詭者之由來

タハの
傾婦之慈心

十 米之由來

大信由來

古く書おのりか人夫信とあるは。大文依ありて
見る由へ。大信賜のらよめて。大信と名付しるなり。其
が。一。ワキ大信小か。一。な。一。信揚男候
あり。び。中。信。信揚男候
上。信。信揚男候
男女。信。信揚男候
大。信。信揚男候
小。信。信揚男候
一。信。信揚男候
づ。信。信揚男候
自。信。信揚男候

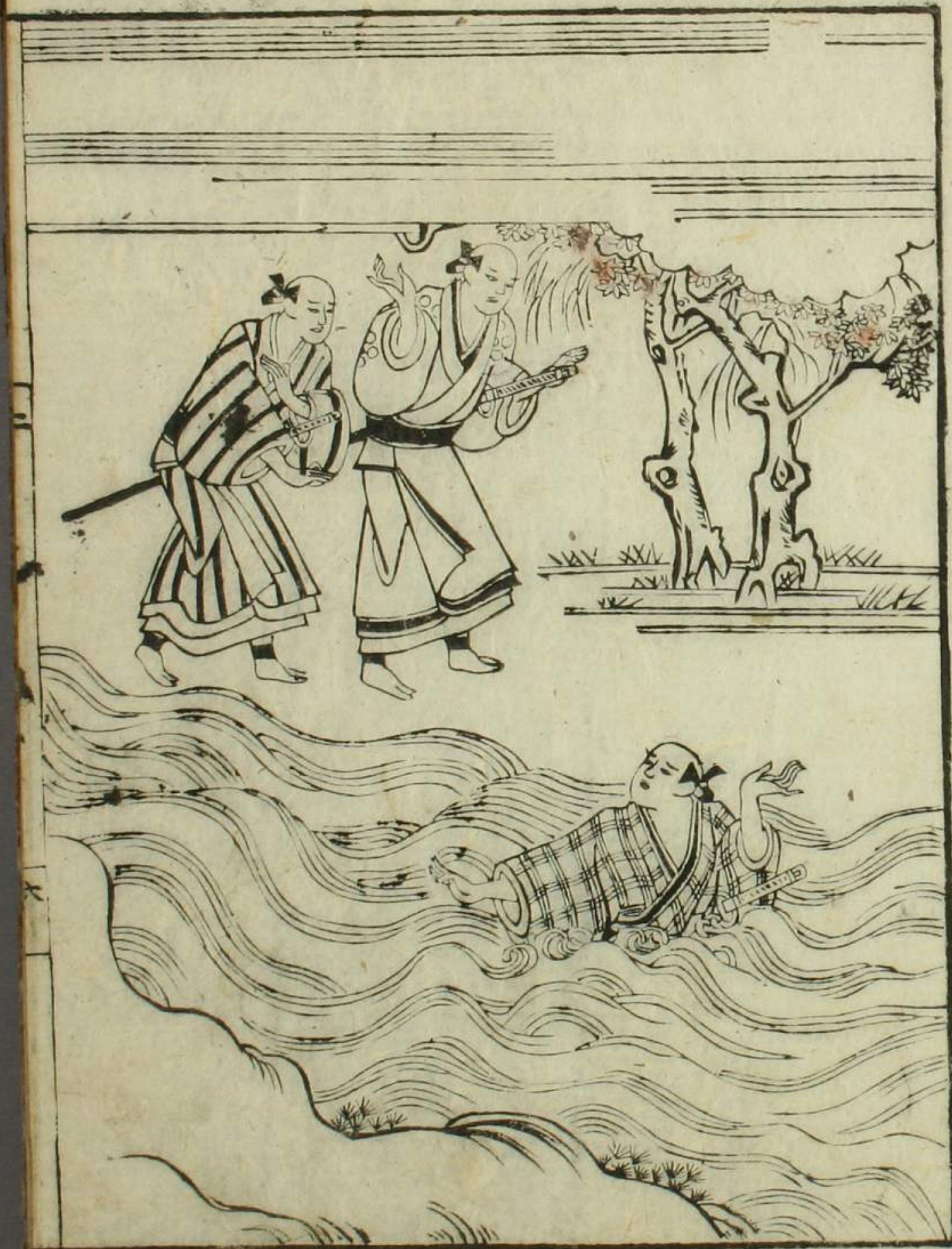


白魚大臣ハ伏見ふかふ人とり。淺木町といふいひと。
ちくさあがりといふむよて名付とや。たま天神か
鹿彦十八女すむ九女 仁英 喜女 又ハアト喜色
あふよ。大佛のつあよるといふ里海ぐのかごらん。又あ
かよりといふもさゆり。九女女らよあふ男かあひ
のこらん。是もあつとのかの巻よあふぐ。鏡小海よ
こふむよて白魚大臣といふありは里ちよあふ派
町といふあり。あひひま町らあふり。鹿彦女らあ
くらやどあり。このりのほま女又あふ一婦あつとあ
かー色あつと一むいの繁島のおとや

月々由來

當在月と名付しめいふいとらるふ。昔々世

乃かりくとたひひかといふ事成すといふはゆふ
怪女町(登)いゆぬおとと律義よあふたまたいゆけ
色月の和のそゆ。是國の和といふらん此定後と見
あつと人もありるといふ。あふ経り。月在あふゆと
月といふり。又あがといふ。あふいひらあふ
月。白のなが。あふの和。怪女町といふ事。あふ海
に家よらつとあふ家言といふとあり。又いふ月あ
さる。あふあふあふあふあふあふあふあふあふあ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあ
ちこいなる。あふ事とつまたあつとあふあふあふあ
ゆふ月といふ。いんとるれづい。あふ事とあふあふ
つあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあ



まはくもさといひふらんしよりて月といなるもの

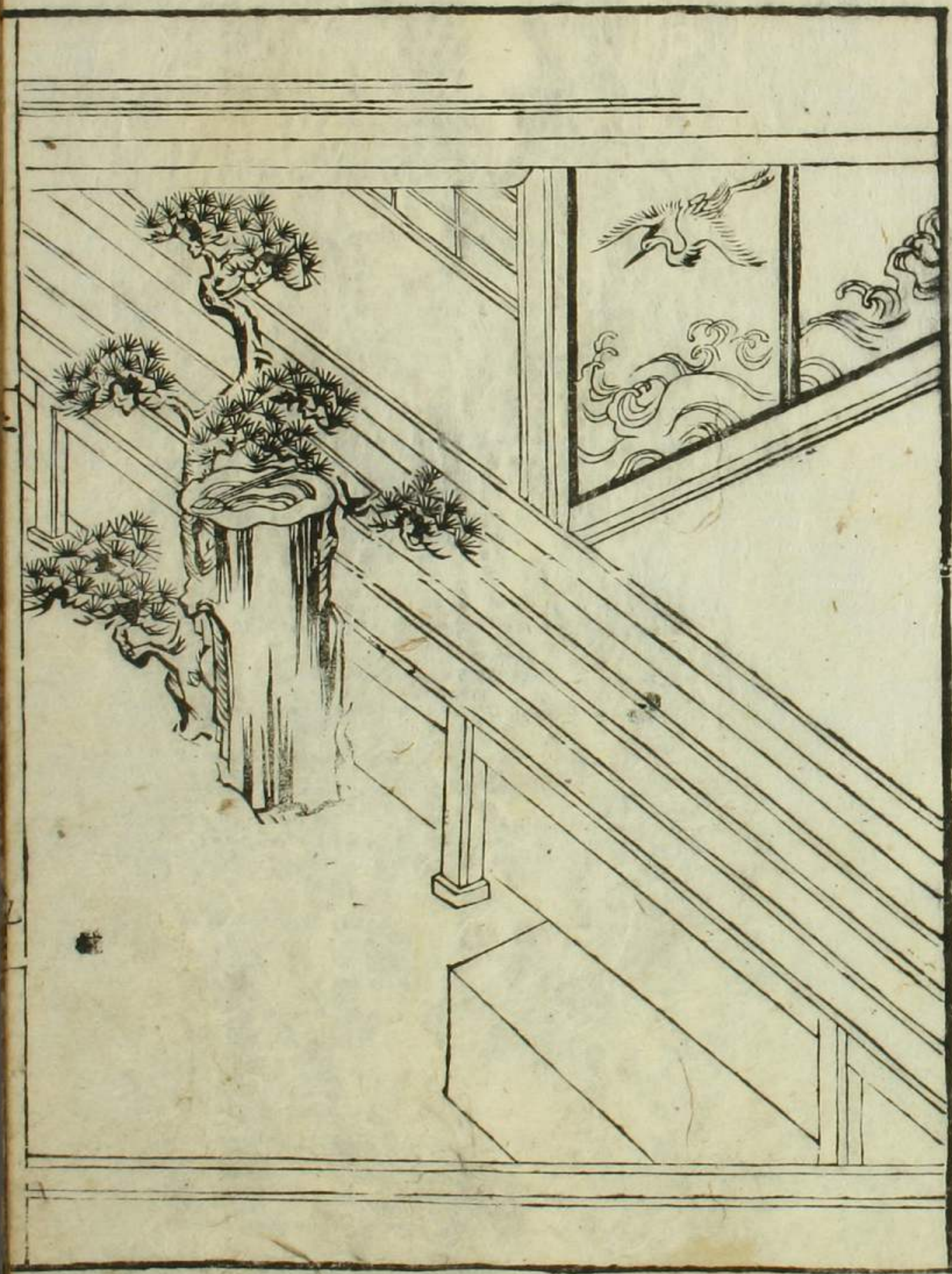
粹之出處

よく人小別て其取く法らぐくめとよいと名づく
たといはくつた度小法らぐりての學ぶ一社一
度よあまの又とよとくわらうことたりかゝる
まづふあれとてあつてつぐくといなり
訓蒙書彙ニ粹の字はなす一もは六字ニ粹は精
不難也と作すはそらぐくよひわけつるといなるも
れとまゝむは字もつらなる一字彙小純粹と連讀
とく純に至る好也粹といは粹のあのごとく精之又粹
来たるせり純まはらるる来本の白くするがごとく
年といはよよくはまはらるるものとわくいなるもの

田之由来

太丈天神之由来

女らにとままと名づく一いひまある事やとる一
新助こゝて江戸よこらぬ東大坂よやく稱せり天神
かひよりいかにあむりくあそぶくも地なりとて後
遊といふは隠居してしゆすいふさぬ古を辭のいふ
ひり一徳を六条あり時今たまといふるくやとの位
ある女帝余慈とよとて徳とらつるけと一月とい
こびり舞うといはれはそまはりるてたまと名づく
さといり天神いひり一わけせん女めなるるめ一縁目と
くこらるといふ事世の人らまはらるるなりたまと松
の位といふは始會帝の右幸之天神と梅の位といふは
本乃公かといふと廢位といふは天代國の字とありとあ



Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or system used.

